

子どもと頭痛

かどの三条こども診療所
2018.7

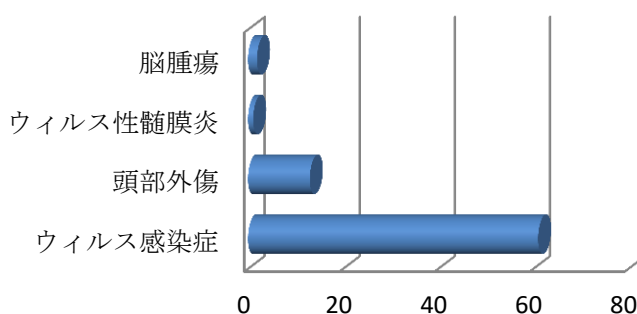
子どもが頭痛を訴えた時に・・・

子どもの頭痛の対応の第一歩は

一次性頭痛か、二次性頭痛か、

の区別です。二次性頭痛というのは何かほかに病気があって、その症状の一つとして頭痛を訴える場合です。いろいろな報告データがありますが、図は代表的なものです。圧倒的にウイルス感染症、つまり風の時に訴える頭痛です。ほかに頭を打った後などがありますが、極めてまれですが脳腫瘍もあります。しかし通常は脳腫瘍が頭痛だけで終わることはないと言われていて、けいれん・嘔吐・震え・ふらつき・意識レベルの低下など神経症状がなければまず考えなくてよいと言われています

二次性頭痛の原因



一次性頭痛の代表を二つ・・・

1. 片頭痛

二次性の頭痛を除けば最も多い頭痛です。右の表に示したような特徴の頭痛です。ここにもあるようにわりと強い頭痛で毎日の生活が制限されがちです。一方で生活のちょっとした配慮と薬物療法が有効です。

2. 難治性慢性連日性頭痛

最も厄介な頭痛です。片頭痛を持っていた子どもたちの一部が、10歳から15歳くらいになってこのパターンに変容していくというのが一般的な考え方です。人口の3.5%くらいはいると言われていて、それほどまれではなさそうです。1日4時間以上、月に15日以上、3か月以上は続くというものです。背景には様々な身体疾患や精神疾患があるとされていて、包括的な丁寧な対応が必要です。

片頭痛の診断基準の抜粋

1. 頭痛発作は4時間から72時間続く、ただし18歳未満では2時間以上としてもよい
2. 頭痛は片側性、拍動性、中等度から重度の痛み、日常的な動作で頭痛が悪化したり、頭痛のために日常生活を避ける
3. 頭痛のあいだにむかつきや嘔吐、あるいは明るい場所・やかましい場所を嫌がる

こうした頭痛のエピソードを反復する



頭痛で困っている方は一度声をかけてみてください